

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人介護事業部の理念及び事業所理念に沿い、職員で決めたサービス目標と今年度の事業目標を達成できるように、サービスを提供している。	法人の理念とともに、4年前職員で作直した、事業所の運営理念「ほっとできる我が家であり、町民と共にありつづけるホームをめざします。」や「ご利用者にとって居心地良く、穏やかに、生活を送れる施設を目指す」とのサービス目標を掲示している。	住み慣れた町や地域の中で、自分らしく生きていくことを支えるグループホームとして掲げる「理念」は、事業所の本来の目的を理解し、日々のサービスの質やケアに活かせるよう、全ての職員が共有し、大切に実践していく必要がある。今後は「理念」への学びや、検討を継続して行われることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設便りや行事案内を地域回覧で回してもらっている。施設で作る干し柿の柿を頂いたり、野菜を頂いたり、施設の行事に参加して頂いたりしている。	事業所は自治会に加入し、行事や催しなどを記載した広報誌を回覧板でお知らせしている。清川地区で生活されている高齢者の方は、柿の実等が実っても収穫できない場合も多くあり、事業所が依頼され代わりに収穫し、頂いた柿を楽しみの一つにし、利用者が干し柿にして地域の方に配ったり、おやつとして食している。また、地域で行われる賽の神への参加の声掛けや、事業所で世話している犬の毎日の散歩での声掛けや触れ合いが継続的に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設便りを地域回覧で回して頂き、施設での様子や取り組みをお伝えしたり、散歩や行事に参加して頂くことで、直接接して頂いたり、感じて頂くように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加人数は少ないが、施設の近況報告や活動報告を行い、参加者より意見を頂いている。意見の内容によっては、職員会議で話し合い、サービスの向上に努めている。	定期的に運営推進会議は開催され、記録は行われている。構成メンバーの予定された方が不参加の時には、内容を郵送し伝えている。	運営推進会議は、事業所の状況を伝えるばかりではなく、いろいろな課題を話し合ったり、意見をいただいたりする大切な交流の場である。今後も、できるだけ利用者・家族や地域の方、同業者等の方への継続した参加を促し、職員のへの内容周知をはじめ、事業所全体での共有を行うことで、意見の交換から得た事柄をケアの中に生かせるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政、包括主催の研修に参加や地域密着型連絡協議会開催時などで意見交換を行っている。	阿賀町包括支援センターから「認知症理解の啓発・予防の発信」への取り組みへの依頼があり、地域のまだ介護保険を利用していない方の調査などに協力している。町の行事への企画協力等をはじめ、今年度から市町村を主にまとめた認知症カフェの計画にも参加を予定し、協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間を除き玄関等の施錠は行なっていない。職員も行動制限や身体拘束等に関して施設内研修や職員会議で話し合い、理解した上で業務に当たっている。現状において身体拘束等は行なっていない。	身体拘束禁止のマニュアルがあり、事業所内でも「身体拘束適正委員会」や、月2回行われている職員会議等で話し合っている。また、職員のストレスチェックは法人が行い、それぞれ直接本人が結果を知らされている。身体拘束をしないケアに継続して取り組んでいる。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内身体拘束適正化委員会や職員会議で話し合い、理解を深めている。	接遇研修や外部・内部研修等で学び、全体周知を図っている。「耳の遠い人への声掛けでは、大きい声と、強い言葉は違う」など、具体的に現場での接遇での工夫をしながら職員間で改善を心掛けている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、年1回内部研修で定期的に学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は重要事項説明書などを用いてご本人、家族が納得、理解して頂けるよう十分に説明を行い契約の締結を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の意見が表れやすいよう、ご家族の代表の方に運営推進会議の出席をお願いしている。	苦情等対応マニュアルがあり、法人共用の受付記録用紙の書式がある。苦情とまでは至らないが、居室の清掃や、家族への報告の迅速さなどについて意見が上がっており、職員会議で共有し対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回職員会議を開催し、職員が意見できる環境を整えている。また、法人介護事業部部長も不定期ではあるが、会議に参加し直接意見が言える環境が出来ている。	管理者は、職員会議等で職員からの意見が出やすいよう配慮しており、現場サイドの意見が多くなっている。夜勤や遅番の時間の変更の提案があり、サービスに関する改善するなど、話し合いが行われ、検討しながら運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回の管理者会議にて職員が働きやすい環境作りの為、職員からの意見を下に、就業規則や内規についての改善、変更を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の委員会への参加や外部研修への参加、また月1回の内部研修などで、人材育成を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の法人での連絡協議会や地域密着型の連絡協議会に参加し、研修や交流会等で情報交換が出来るように努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居にあたり、不安に思っている事や心配な事などを十分に傾聴し、安心、納得してもらえるまで何度も説明するよう心掛けています。また、家族との繋がりの継続に向けて働きかけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時及び入居後も、グループホームでの生活などの不安や要望はできる限りお聞きし、安心して頂けるよう説明を行っている。施設での生活の様子なども定期的に報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時、ご本人様、ご家族様への利用説明において、状況等の確認、把握をしながら必要に応じて、他サービスの説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様は人生の先輩であるという認識を共有しており、習わしや、郷土料理等を通じて入居者様の知識や経験を学ばして頂いている。入居者様同士の支え合いを阻害しないよう皆で暮らすことの重要性を認識している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月入居者様の生活の様子などをお便りを送り報告している。近隣の家族の方には、月に1度の面会をお願いし関わりを絶やさないように心掛けている。	利用者は近隣の出身者が多く、パーマなど慣れ親しんだ美容室に定期的に出かける方もおり、眼科や皮膚科等、地域の馴染みの場所に支援を得て通い続けている。また家族の面会時には外出とともに、外食を楽しみにされている。面会時にも家族や地域の方達との交流ができるよう支援に努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた方には、また来て頂けるようお伝えしている。馴染みの場所をご家族様の同意を得てから職員と一緒に出掛けられるよう配慮している。	美しい自然豊かな地域にある事業所であるが、周りには、商店などはなく、戸数も暫時減りつつある。毎日の3食分の買い物時には、職員と一緒に利用者も交代で出掛けたり、地域の方との交流を多く取れるように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご自分の生活リズムを1番に考え、無理には進めないが、出来る限り同じ場所、同じ空間で生活して頂けるようにしている。また、入居者様同志が助け合い、支え合えるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用や契約が終了しても関係を断ち切らず、町内でお会いした時は、現在の状況を聞いたり、継続的な付き合いを大切にしよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の思いや希望などは出来るだけ実現できるよう配慮している。出来る限りご本人様の思いや希望を聴き、ケアプランや個別サービスに反映している。	計画作成者を兼任する管理者は、センター方式の一部を使用し、ご本人の思いや希望を直接聞き取り、ケアプランに取り入れている。特に、食事のおりの手伝いなどの参加や、美味しい食事を楽しみにしている言葉が多く、職員にも伝え、ケアに生かせるように配慮している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし、生活環境、これまでのサービス利用の経過等をご本人、又はご家族に聞き把握に努めている。	入居時、介護支援専門員や家族より情報を確認している。利用者からは、日常のさり気ない会話の中から、できるだけ把握し、日常のケアに活かすよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が把握できるように、定期・不定期だが会議にて入居者様のことについて話し合う機会を作り、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりのなかで、ご本人に意見や意向の確認、聴取を行ったり、受診時に主治医や面会時にご家族様から意見を聞き、また職員からも意見を聞き、介護計画を作成するように心掛けている。	本人に聞くと「自宅に帰りたい」が多いので、中々本人に聞くという形ではない事も多いが、初回のプランを大きく変更することは少ない状況となっている。モニタリングは3ヶ月ごとに行われ、介護計画に反映させるよう努めている。	利用者の状態のモニタリングを、本人、家族、職員等で共有し、本人、家族を含めたカンファレンスを開催し、アセスメントをより深く行うことで介護計画の見直し等にも、活かしていくことが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実施と結果、気づきや工夫を個別の記録に記入している。情報を共有しながら実践したり、介護計画、サービスの見直し、変更を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況、その時々要望に応じて、併設施設の職員に意見を聞いたり、運営会議参加の方へ相談や意見を頂き、柔軟な対応ができるように心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じて、速やかに協力、相談できるように地域資源の把握や、いざという時に相談できる体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族が希望される医院や馴染みの医院を優先とし、かかりつけ医と事業所の連携を強化し、適正に対応出来るように心掛けている。	受診同行は基本家族にお願いしているが、大部分は職員が行うことが多くなっている現状となっている。また、医師の往診は行われていないが、週2回、法人から看護師が来所し、医療的な相談等に対応している。受診の支援も行われている。	アンケートからの意見から、受診後の報告がすぐに行われていないとの指摘もあるため、今後も家族との連携を密にして行かれることを期待したい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2日、併設施設の看護職員が勤務しており、入居者の健康管理や特変時の対応、指示をお願いできる体制が構築されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際は、職員も定期的に面会に行き、看護師から病状の説明等を受けるようにしている。スムーズに退院、受け入れが出来るように、メディカルソーシャルワーカー等との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護職員配置により、ご家族様に入居者様の重度化及び終末期についての意見を頂いている。また、今後重度化した場合の相談体制についても話し合いを行い、意見や考えの共有に努めている。	入所時に看取りについての説明を行っている。看取り介護の定義から体制・実施内容・役割・職員教育等を説明し同意を得ている。家族の希望で、今までに終末期を事業所で対応した事例は少ないが、これからも希望があれば支援に努めて行く予定である。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員を配置したので、新たに緊急時の対応や連絡方法など、事業所内で冷静に対応できるようにしている。	緊急時の手順書を作成して、職員の中で周知を図っている。昼夜を問わず、何か緊急時には管理者への連絡を優先している。また隣接施設から看護師の配置も柔軟に行われ対応を図っている。公立の病院が近くにあり、昼夜を問わず対応してもらえる体制作りが整備されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時、併設の施設だけではなく、地域の方の協力も区長にお願いしている。また、町内の法人連絡協議会で災害時の協力体制についての話し合いも行っている。	災害の水害は小高い立地のため、直接的な心配はないと思われるが、道路が寸断することもあるため、事業所は備蓄を備えている。土砂災害への対策としても地域の災害訓練にも参加するなど、日ごろから地域との交流を図り、協力体制の構築に努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今年度、接遇係を設置。係を中心に職員会議の議題の1つとして毎月1～2回、接遇についての話し合いや改善等を行っている。	去年地域の方から職員の言葉や態度について苦情があり、職員会議や話し合いで「接遇係」を新たに設置し、活動を開始した。不適切と思われることに関して会議等で、職員全体の理解を得るため、より具体的な事例を基に現場の職員間で検討を重ねている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が自己決定できるように、職員は傾聴に気をつけており、職員の都合などは押し付けないように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの生活のリズムやペースを大切に、ご本人の意思や希望を確認しながら臨機応変に対応できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望、意向により美容室に行ったり、訪問理容の方に来て頂いている。日常の衣類もご本人がタンスやクローゼットから好きな物を選んで頂いている。入浴時も本人に選んで頂く様にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物や調理の準備など職員と一緒に作業をすすめており、個々の能力の維持になっている。食べたい物や好き嫌い、食後においしかったかを聞いたり、買い物の際に食べたい物を買ってきたり食事を楽しめるように努めている。	利用者は食事を何よりも楽しみにしている。食事メニューは職員が6日分ずつの献立を考え、ほぼ毎日、職員と数人の利用者と献立に沿った買い物に出かけている。職員の見守り支援の下、食事の準備や食後の洗い物、ランチョンマット拭き、お茶出しは利用者の得意なことを活かした役割として行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の状態に応じた食事内容や食事形態、栄養バランス、季節の物や塩分など主治医や看護師、職員で検討しながら食事の支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後必ず歯磨きの声掛けを行っている。居室でやる方、ホール内の洗面台でやる方など個々に合わせて実施している。歯磨きが不十分な方には介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけ自力で排泄して頂けるよう早めに声を掛けたり、定時トイレ誘導など1人ひとりに合わせて支援し、排泄パターンを把握するように心掛けている。	排泄支援は、自立している方には排便のみチェックしている。それぞれの排泄パターンを把握して、声掛けや誘導に努めている。現在、布パンツの方が2名おられ、排便に関してはヤクルトやヨーグルトなどを取り入れ、配慮した食事やおやつを提供している。また水分摂取の量も1日1L～1.5L摂れるよう促している。薬に頼らない形を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に、食物繊維の多い食材や乳製品などの摂取、体操等に取り組んでおり、出来るだけ便秘のないように排泄パターンの把握に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や時間などの設定はされているが、入居者様の希望時間や希望日など、できるだけ入居者様に合わせて入浴の提供を行っている。また、入浴剤などで入浴時もゆっくり楽しめるようにしている。	入浴は週2回以上、夏場は3回の支援を行っている。シャンプーや石鹸は事業所で用意している。しょうぶ湯やゆず湯など季節感を味わえる配慮をしている。重度の利用者には看護師が居る日に入浴を行い、褥瘡の処置などを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜問わず、その時の状況や体調、習慣などで休みたい時には好きな時間に、自由に休息できるよう環境の整備、又は支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は看護職員が一括して行っているが、薬の目的や副作用についてを職員間で情報を共有できるように日々看護職員との連携に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の生活歴や能力、力を活かして調理の準備やお茶入れ、配膳、掃除など担当してやっている。レクリエーションやドライブなどの外出などで気分転換して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物などの希望があれば、その都度職員と一緒にいる。また、行きたい所や行ってみたい所など、入居者様から意見を聞き、出来るだけ外出する機会が持てるように心掛けている。	利用者は職員と毎日の買い物と一緒に出かけ、好きなものを買ったり季節の服を買ったりしている。行きつけの美容院や床屋にも出かけている。またペットを同伴の入居も可能であり、犬や猫を事業所で飼って、皆で世話をしている。季節により公園などへも出かけている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望、能力、ご家族の同意の下、お金の所持や使えるよう支援している。その他は預かり金として施設側が管理して必要に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人がご家族、兄弟、親戚等に電話を希望された場合は本人に電話を掛けて頂くか、職員が電話を掛け、つながったら本人に替わりお話しをして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内、壁面などには季節に応じて装飾を変えている。行事の時に写した写真やレクリエーションで作成した作品などもホール内に貼っている。植木も時期によってはホール内に置き、水やりをして頂いたり、植物に触れることにより気分転換できるよう支援している。	居室は週2回職員と一緒に掃除をしている。ホールの机の配置にもこだわりを持ち今の形にしている。壁には利用者の作品やお出かけ時の写真を展示したり、季節の雰囲気を出せる飾りを工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニング(食堂)、リビングの他に、視覚的に個別空間となりうるよう区分した場所を配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者、ご家族と相談をして居室内の飾りつけや、入居時など使い慣れた物や思い出の物も持ってきて頂き、居心地良く過ごせるように心掛けている。また、担当の職員が定期的に、ご利用者と一緒に整理整頓を行っている。	居室の家具類は本人のタンスや写真を持ち込まれ、ベッドは利用者に合わせた事業所のものを利用している。お部屋の目印にレクで作成したものや、花や手作りのもので違いを出して部屋の目印にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室などは分かりやすく工夫しており、居室なども能力に応じて装飾品などで目印をつけ自立した生活を送れるようにしている。また、定期的に入居者に確認しその都度改善している。		